《2024 年 3 月》東大病院教職員・ご関係者の皆さまへ

院内 BLS 講習会/スキルチェック開催のお知らせ

（主催）クリニカルシミュレーションセンター
（協力）看護部，救急・集中治療科，医療安全対策センター

東大病院クリニカルシミュレーションセンターでは、東大病院教職員やご関係者の皆さんを対象に、一次救命処置（BLS）講習会（成人）を定期的に開催させて頂いております。

BLS はきわめて基本的な手技ですが、一方で皆さんが院内で行う場合は一般市民とは異なり**医療従事者にふさわしい質の高い BLS** を行うことが期待されており、それが患者さんの予後を左右する可能性もありえます。

当コースを受講頂くと、胸骨圧迫の深さやテンポなどを測定可能なマネキンを用いて実習することで、**医療従事者にふさわしい質の高い BLS を身につけて頂ける**ことができます。

受講のうえスキルチェックで基準を満たせば、認定証を発行させていただきます（基準を満たすまで指導させて頂きますのでご安心下さい）。また、コースを受講しなくても、**スキルチェックのみ受けて頂いて基準を満たせば、認定証を発行**させていただきます。

多くの皆さんのご参加をお待ちしております。

【内容】成人の BLS（事前の e ラーニングおよび対面での実習）
*日本救急医学会認定 BLS コースにすることも可能です
（申請が必要なためお申込みフォームで希望をお知らせください）

【対象者】東大病院教職員・関係者（職種は問いません）

【コースの種類】

（1）通常コース（120 分）：90 分の実技に引き続きスキルチェックを行い、認定証を発行します
（2）スキルチェック（20 分）：チェックのみ行い、2 回以内に基準を満たせば認定証を発行します

【開催日程・募集人数】

スキルチェック開催日程指定なし（個別日時調整に変更）：よりご参加しやすくなりました

2024 年 3 月 27 日（水）17:30-19:30（120 分）	通常コース	4 名募集
2024 年 3 月 平日 （時間は個別調整）	スキルチェック	1 名以上申し込みで実施

* スキルチェックはご都合に合わせたお時間で実施させて頂きます（17:30 以後も可）
** 勤務のご都合等ご事情がある場合、通常コース/スキルチェックとも開催時刻につきご相談に応じます
*** 上記以外にも、部署単位やご友人同士のグループ等での個別開催も承りますので、参加人数や開催希望日を添えてセンターまでお問い合わせください

【会　場】入院棟 B 14 階 クリニカルシミュレーションセンター（対面）
【指導者】当センタースタッフ（ICLS ディレクター/JMECC ディレクター資格保有者）
【その他】・e ラーニング（elUHT）での事前学習「一次救命処置（BLS）e ラーニング【基礎編/成人】」（30 分程度）のうえ、上記の実技コースにご参加頂きます。
・次回以後の開催予定は、当センターの HP や MULINS で随時ご案内いたします。
【お申し込み】*お申し込みは先着順とし、募集人数に達し次第、回答の受付を終了します

▼通常コース申込フォーム
https://forms.gle/gTVtadnnnuTLiM1o8

▼スキルチェック申込フォーム
https://forms.gle/nLvHCV3p2CVxBCFdA

申込 QR コード

＜お問い合わせ先＞
クリニカルシミュレーションセンター
E-mail：t-csc@adm.h.u-tokyo.ac.jp
Tel：03-5800-9288（内線：32217）

*スキルチェック：お申し込み内容を確認し、個別に確認のご連絡をいたします

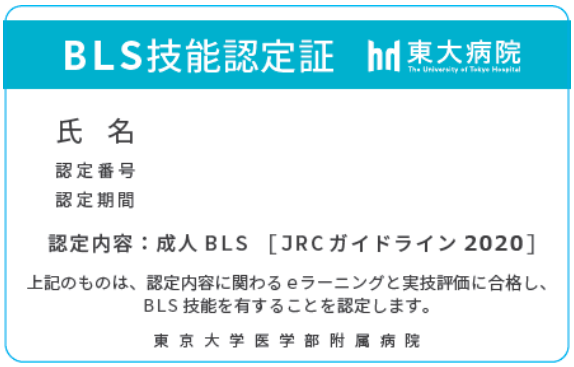
参考資料

＜タイムスケジュール（通常コース）＞

17:30-17:40 (10 分)：オリエンテーション[コース概要/自己紹介/機材説明]
受講前スキルチェック（QCPR）
17:40-17:50 (10 分)：窒息対応
17:50-18:00 (10 分)：BLS プロトコールのポイント確認
18:00-18:10 (10 分)：発見～心停止確認
18:10-18:20 (10 分)：胸骨圧迫（QCPR）
18:20-18:30 (10 分)：人工呼吸（QCPR）
18:30-18:40 (10 分)：二人法 BLS（QCPR）
18:40-18:50 (10 分)：AED
18:50-19:00 (10 分)：休憩
19:00-19:30 (30 分)：受講後スキルチェック（QCPR)→合格後順次解散

腹部突き上げ法の練習

＜認定証見本＞



（表 面）

（裏 面）

＜QCPR マネキン（レールダル社）＞

胸骨圧迫の深さ（mm)、テンポ（/min)、中断時間（sec)、圧迫解除、不適切な圧迫位置、人工呼吸の換気量（mL)、ガイドラインの達成度（スコア）などについて、客観的な評価が可能です。